

「かながわ自殺対策計画」平成30年度事業の進捗状況にかかる委員事前意見のとりまとめ状況

整理 No.	大柱	施策事業名等	提出機関・団体	意見の概要
No.1	1	全般	神奈川県弁護士会	自己評価の結果を記載していただくと意見も出やすいと思う。
No.2	1	全般	かながわ女性会議	分析にあたって、ジェンダーの視点を取り入れているかどうかの検証が必要。統計のデータとしては、難しいところがあるのは承知しているが、国の統計にジェンダー統計の考え方が取り入れられていないことも含めて、問題提起が必要である。
No.3	1	全般	かながわ女性会議	具体的な女性やLGBTなどに向けた事業の展開はもちろん重要だが、ジェンダーの視点から施策・計画全体を見直すこと(ジェンダーメインストリーム)も重要である。それなしには、せっかくの施策や事業が効果をもたない、あるいは極端な事例では、逆効果となる可能性もある。第24回の対策会議でも指摘し、具体的な方策についても発言したが、その後の検討や所管部署との協議について報告をお願いしたい。
No.4	2	007 自殺予防週間等における自殺対策街頭キャンペーン・講演会の実施	神奈川県弁護士会	判定がEとなったものがある理由は何が記載されていないのでの外れかもしれないが、中間評価のタイミングなどをもうければ実施に抜けがなくなるかと思った。
No.5	2	017 ストレスチェックホームページ・アプリ「こころナビかながわ」の運営	神奈川県弁護士会	インターネットの反響は素晴らしい。
No.6	3	024 自殺対策に関する出前講座 025 教職員向け研修会への講師派遣	神奈川県弁護士会	数値目標のあるものとなないものの差異がわかりにくい。例えば、「024」と「025」は似たような内容に見えるが、「025」の方も数値目標を作った方が事業の進捗がわかりやすいように思う。
No.7	3	032 老人クラブとの連携によるゲートキーパー養成研修の実施	神奈川県老人クラブ連合会	各年度当初の早い時期(5月前後)に講座の具体的内容(必要時間、費用、実施可能回数などを含む)を示した開催案内が届けば、ブロックによっては年間行事に組み込むことが可能と思われる。
No.8	4	044 こころの電話相談 046 特定相談(依存症電話相談、自死遺族相談、ピア電話相談)	神奈川県弁護士会	相談事業は、開催回数が目標となっているものと、件数が目標になっているものがあるが、相談件数が目標となっている方がわかりやすいように思った。
No.9	4	051 老人クラブによる友愛訪問	神奈川県老人クラブ連合会	今年度実績は449チーム。毎年度増減があるが、県からの補助単価が上がってから、増加傾向にある。根本的には、クラブ及び会員の減少防止対策が必要である。
No.10	4	063 県立高等学校へのスクールメンター配置	神奈川県弁護士会	報酬等が課題となっている一方、次年度の方向性がそれを改善できるものにはみえないため、次年度も改善できないのではないかと心配である。

「かながわ自殺対策計画」平成30年度事業の進捗状況にかかる委員事前意見のとりまとめ状況

整理 No.	大柱	施策事業名等	提出機関・団体	意見の概要
No.11	4	全般	かながわ女性会議	女性に関する施策のアプローチがやや狭いのではないか。他の施策と組み合わせるなどの工夫が必要と思われる。
No.12	4	LGBTなどのセクシュアル・マイノリティの方たちへの施策	かながわ女性会議	企業向けのが少ないのは、残念である。
No.13	4	LGBTなどのセクシュアル・マイノリティの方たちへの施策	かながわ女性会議	求職中の方たちへのアプローチも必要である。
No.14	4	LGBTなどのセクシュアル・マイノリティの方たちへの施策	かながわ女性会議	施策や事業の展開が、差別創出装置とならないための工夫も必要であろう。(LGBT理解・配慮から、SOGI・SOGIESCへの展開)
No.15	5	全般	かながわ女性会議	子ども、青年期の方々への施策については特に、またそれ以外の方に関しても、ジェンダー／セクシュアリティの視点からの捉え直しを具体的な事業に沿って行うことが重要である。
No.16	6	104 メンタルヘルス講演会の開催【再掲】	神奈川県弁護士会	普段、メンタル不調を訴える多くの労働者と接している立場から、課題が「特になし」となっている項目が多いのは気になる。判定がAでも課題は記載した方がいいと思われる。
		105 職場のハラスメント対策等【再掲】		
		107 働く人のメンタルヘルス相談の実施【再掲】		
		108 経済団体への要請の実施		
		109 セミナー、講演会等の開催		
		110 労働相談の実施		
No.17	6	全般	かながわ女性会議	自死の理由に変化が見られるとの報告があった。この柱の対策に関しても、効果の点から内容の精査が必要だと思う。
No.18	7	121 精神科看護職員研修事業	横浜市立大学	数値目標を大きく下回った要因は何か。
No.19	8	130 向精神薬の重複処方チェック	神奈川県弁護士会	生活保護バッシングにつながらないようご配慮いただきたいと思う。
No.20	10	165 自殺未遂者支援事業	横浜市立大学	独自目標はどのように設定したのか。進捗率だけみると飛びぬけた数値だが、妥当な設定だったのか。直近値48%とは何を指しているのか。